



Joyful Naturalist



Contents

●Topics

- 〈特集1〉源流保水の森・MGV環境貢献事業の東日本拠点に
- 〈特集2〉和光大学講義「自然保護活動(源流保水の森)」
- 〈特集3〉町田市「源流森づくりボランティア」支援

- NPO法人鶴見川源流ネットワークプロジェクト活動
- 鶴見川源流ネットワーク参加団体活動
- 5月、6月の活動報告
- 7月、8月の活動予定

No.164

★第18回源流祭雨天中止・残念会で源流域大回遊



源流展望の丘へ



旧鶴見川の流れをみる



源源流東の窪をのぼる

第18回鶴見川源流祭（5/11）は雨天中止となりました。「鶴見川源流自然の会」（1988年7月）、「町田の自然を考える市民の会」（1988年12月）の2つの市民活動がスタートし、鶴見川源流ネット、鶴見川流域ネットワーク創設の基盤が形成されて20年を記念する節目の源流祭。雨天中止はまことに残念なことでした。しかしこれも竜神のおぼしめし。にぎやかに残念会プログラムが実施されました。

中止決定後、小山田桜台集会所に集まった源流スタッフを中心とするTRネットメンバーは、和光大学かわ道楽の若者たちを含めて50人を超す規模になり、150人分を用意した源流なべ、地元産のもち米で作ったお赤飯も見事に平らげました。午後は有志40名で杉谷戸・展望の丘、みつやせせらぎ公園、源流泉ひろば、さらに、npo源流ネットの作業によって見事に再生の途上にある〈源流保水の森〉を、春の谷戸山の自然を満喫しながら大回遊することになりました。こんな機会でもなければ、源流域の大回遊など、とても余裕のなかった若手スタッフたちは、あらためて源流谷戸山の規模の壮大さに感動しきり。源流ネットの仕事の規模や多様性もあらためて認識していただけたかと思えます。竜神が手配してくれた雨の貴重な学習時間、100%活用できたと思えます。

早朝まで準備に奔走され、ご支援くださった流域の関連行政、企業、そしてTRネット、いるか丘陵関連団体のみなさま。源流なべ、パネル作成等の準備ならびに中止のためのさまざまな対応に奔走されたスタッフ各位に、心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

【第18回 鶴見川減流祭実行委員長 岸 由二】